

N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅

2017年2月4日(土)～6月11日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

現代アートで巡る、南インドから宇宙まで

～N・S・ハルシャらが登壇するトークセッションや、子ども向けワークショップ
美術館内で開催するヨガイベントなど、関連プログラムの詳細が決定！～

森美術館は、2017年2月4日(土)から6月11日(日)まで、インド人アーティストN・S・ハルシャの初の大規模個展となる「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」を開催します。

N・S・ハルシャは1969年、南インドの古都マイスールに生まれ、現在も同地を拠点に活動しています。南インドの伝統文化や自然環境と真摯に向き合うN・S・ハルシャの独自の創作姿勢は、インド現代美術が経済成長とともに国際的注目を浴びるなか高く評価され、これまで数多くの国際展に参加してきました。絵画を中心に多彩な表現技法を駆使した作品に通底するのは、ひとの身体に象徴される小宇宙と森羅万象を包む大宇宙を同時に捉える世界観、そしてこの世の不条理へと向けられた観察者の視点です。

本展では、1995年以降の主要作品約70点(新作を含む)を通し、アーティストの20年間にわたる実践を見つめます。タイトルにある「旅(ジャーニー)」は、アーティストの人生の歩みだけでなく、マイスールから見たインドの経済発展、伝統と現代の往来、日常の営みから宇宙的視点への拡がりなど、多様な「旅」を示唆します。世相

や状況を批評的かつユーモラスに描くことにより、N・S・ハルシャはこの世の皮肉も愛も逆説もすべて含んだ魅力を「チャーミングな旅」として伝えてくれるのです。

マイスールというローカルな地点に根差したN・S・ハルシャの視点は、これまで主流だった欧米的な近現代美術の解釈や枠組みからアートを解放し、時空間を超え、より普遍的なものへと導いてくれるでしょう。

[左]《宇宙情報処理センターでの名優》 [右下]同左(部分)
2015年 アクリル、キャンバス 190 x 150 cm
Courtesy: Victoria Miro, London



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

N・S・ハルシャ 略歴

1969年、インド南部、カルナータカ州マイル生まれ。現在もマイルを拠点に活動。1995年、ヴァドーダラーのマハーラージャ・サヤラジオ(MS)大学絵画修士課程修了。ドイツ学術交流(DAAD)奨学金(2012年)を受ける。また、アルテス・ムンディ大賞(2008年)などを受賞。コーチ＝ムジリス・ビエンナーレ(インド、2014年)、モスクワ現代美術ビエンナーレ(2013年)、堂島リバービエンナーレ(大阪、2013年)、アデレード・フェスティバル(オーストラリア、2012年)、横浜トリエンナーレ(2011年)、サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル、2010年)などを含む多数の国際展に参加、また2009年にロンドンの国際美術研究所(INIVA)、2008年に東京の銀座メゾンエルメスフォーラムにてそれぞれ個展を開催。他、インド現代美術を包括的に紹介した大型国際巡回展「インディアン・ハイウェイ」(2008年、ロンドン、サーペンタイン・ギャラリー／2012年まで世界5都市巡回)、「チャロー！インド：インド美術の新時代」(2008年、森美術館／2009年、ソウルとウィーンへ巡回)にも参加。



撮影：Mallikarjun Katakol

開催概要

展覧会名：N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅

主催：森美術館

後援：インド大使館、公益財団法人 日印協会

協賛：ダイキン工業株式会社、株式会社大林組、トヨタ自動車、YKK / YKK AP、NTTコミュニケーションズ株式会社、ハウス食品グループ、鹿島建設株式会社

制作協力：Usha International Ltd.

協力：キャセイパシフィック航空会社、シャンパーニュ ポメリー

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

会期：2017年2月4日(土)ー6月11日(日)

会場：森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間：10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料：一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開催意義

森美術館はこれまで、中国、アフリカ、インド、中東など成長目覚ましい世界各地の現代アートの現状を紹介する地域展と、アジアの中堅アーティストの大型個展を両輪として開催してきました。N・S・ハルシャは、2008年に開催した地域展「チャロー！インド：インド現代美術の新時代」参加アーティストの一人で、インド現代美術界においては、その多彩な手法、作品背景にある南インドの自然や伝統文化、文脈の多様さから独自の立ち位置を確立しています。本展は、地域展で注目したアーティストを大型個展であらためて深く紹介する、森美術館の一つの方向性を示す企画展であるとともに、N・S・ハルシャにとっては、初のミッドキャリア・レトロスペクティブ*となります。

*ミッドキャリア・レトロスペクティブ：アーティストのキャリアの晩年や没後に開催されるイメージが強い「回顧展」に対して、一定のスタイルを確立した中堅アーティストの数十年間の仕事を網羅的に見せる展覧会。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

◆ 本展のみどころ

[1] 故郷マイスールを拠点に描かれた物語から、世界各地のグローバル化の実態を考察する

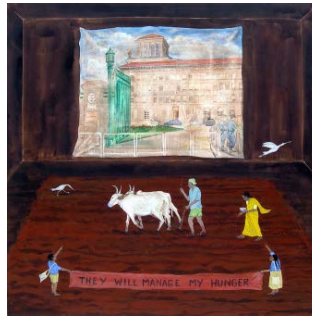
遊び心に満ちた寓話的なアプローチで描かれた、南インドの自然や素朴な日常生活の中には、インドの一地方都市を起点に政治経済や文化のグローバルな動向を展望する、N・S・ハルシャの批評的な眼差しを見ることができます。

■ 「チャーミングな国家」シリーズ

マイスールを舞台にさまざまな物語が展開する、N・S・ハルシャの初期の代表作「チャーミングな国家」シリーズには、1990年代初頭の市場開放以降に起きたインドの社会的な変化が織り込まれ、グローバルに繋がる世界経済の影響を示唆しています。

《彼らが私の空腹をどうにかしてくれるだろう》(2006年)では、農地の後ろに世界貿易機関本部ビルが描かれ、国家の成長や子どもたちの空腹を満たすのは、畑を耕す農民が、それとも自由貿易なのかと問いかけます。

《チャーミングな国家》(2006年)では、外国製の農耕機械が農民たちの仕事を奪った事実が暗喩的に描かれています。



《彼らが私の空腹をどうにかしてくれるだろう》
(「チャーミングな国家」シリーズより)
2006年
アクリル、キャンパス 97 x 97 cm
所蔵：ボディ・アート・リミテッド、ニューデリー



《チャーミングな国家》
(「チャーミングな国家」シリーズより)
2006年
アクリル、キャンパス 97 x 97 cm
所蔵：ルチラ・アガーワル、ムンバイ

[2] 世界の普遍性と多様性を同時に映し出す、モチーフの「反復」

N・S・ハルシャの絵画の特徴は、一つの作品に人物や動物などのモチーフが反復して描かれている点です。同じような個体が整然と並ぶ様子は、遠目で見ると一つの集団を形成しているように見えますが、細部に寄ってみると、表情、しぐさ、衣服など全てが異なり、それぞれの特徴が浮かび上がります。それは、一つの国家でありながら、多言語、多宗教、多文化で構成されたインドの多様性を映し出しているようにも、また一方で、どこの国にも当てはまる世界の縮図のようにも見えてきます。

全体と部分、集団と個人といった、相対的な視点を合わせ持ったN・S・ハルシャの絵画には、世界を客観的に見つめる観察者としての姿勢が反映されています。

■ スタイルを確立する契機となった作品

3点組の絵画《私たちは来て、私たちは食べ、そして私たちは眠る》(1999-2001年)は、N・S・ハルシャが、人々を多数並列して描くスタイルを確立する契機となった作品です。出産から死まで、人生の多様な段階が、移動する、食べる、眠るといったきわめて基本的で日常的な行為を通して描かれています。

《私たちは来て、私たちは食べ、そして私たちは眠る》(部分)
1999-2001年 合成樹脂絵具、キャンパス
172.1 x 289.3 cm、169.7 x 288.5 cm、172.2 x 289.2 cm
所蔵：クイーンズランド州立美術館、ブリスベン



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

—N・S・ハルシャの絵画を楽しむポイント—

■ 何度見ても新しい発見！「チャーミング」で多彩なキャラクター

作品に登場するのは、老若男女、映画のヒーローから現代アートスター、インドの神々や動物まで多種多様。描かれた個性溢れるキャラクターの数は、《ここに演説をしに来て》(2008年)だけでも約2000。何度見ても新しい発見があり、1日中鑑賞していても、見飽きることはありません。



《ここに演説をしに来て》(部分)
2008年 アクリル、キャンバス
182.9×182.9 cm(×6)



《人間的な未来》(部分)
2011年 アクリル、キャンバス
76 x 107 cm
個人蔵

■ 物語を読み解く「ヒント」

絵画の中に、何度も出てくるモチーフ。それらに着目して作品を見ると、作品に込められた物語やN・S・ハルシャの思想を、より深く理解することができます。



望遠鏡と顕微鏡

絵の中に描かれた望遠鏡は、世界を俯瞰する「マクロな視点」、顕微鏡は日常の細部を見つめる「ミクロな視点」のメタファーです。全体を俯瞰したり、細部に寄ったり、両方の視点で作品を鑑賞すると、作家の世界観を理解できるでしょう。

【左】 《探し求める者たちの楽園》(部分) 2013年 アクリル、キャンバス 190 x 150 cm 個人蔵

【中央】 《この世でモー》(部分) 2014年 アクリル、キャンバス 190 x 150 cm 所蔵：有沢敬太

【右】 《道を示してくれる人たちはいた、いまもいる、この先もいるだろう》(部分) 2014年 アクリル、キャンバス 190 x 150 cm Courtesy: Victoria Miro, London



宇宙

N・S・ハルシャの絵画には、「地球」や「銀河」など、宇宙に関連したモチーフが多数登場します。マイルールの日常を丁寧に見つめながらも、作家の関心は常に世界、そして宇宙にまで広がっていることを物語っています。



動物

生き生きと描かれた動物にも、それらにまつわる神話や逸話、意味が込められています。例えばなげ猿は、空を指差しているのでしょうか？その答えを考えることで、N・S・ハルシャの思想やその背景にある文化に触れることができるでしょう。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

[3] 作品が生まれ出された南インド、マイスールの文化に触れる

N・S・ハルシャの住む、南インドのマイスールはどんな場所なのでしょう。N・S・ハルシャの作品は、どのような環境や日々の生活から生まれ出されているのでしょうか。作品の文化的背景を理解するためのガイドとして、会場には関連資料、写真、地図などが展示されます。

■ マイスールの文化や日常を体験

マイスールの地方新聞が読めるコーナーから、南インドの伝統的な食事「ミールス」の食品サンプルが並ぶインスタレーションまで、会場では、様々な角度から南インド、マイスールの文化や日常を体感することができます。マイスールでアシュタンガヨガが盛んなことに因み、美術館内でヨガを楽しみながらアートを鑑賞するイベントも開催します。

■ 資料展示室「リソース・ルーム」が登場

「リソース・ルーム」と称した資料展示室では、マイスールを中心にインドの人々の日常生活や風景などを写真や映像で紹介します。作品のアイデア・スケッチ、制作のインスピレーションとなったインドの漫画などの資料、マイスールの伝統絵画も合わせて展示し、N・S・ハルシャの作品の背景にある文化的・思想的な文脈を探ります。



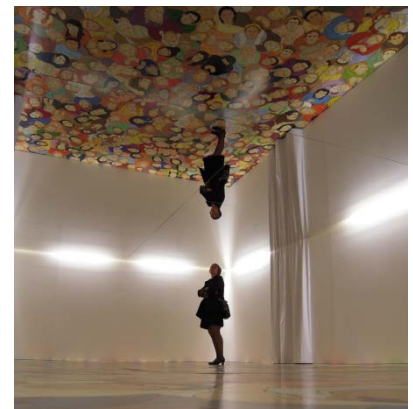
【左】
《レフトオーバース(残り物)》(部分)
2008年
展示風景：「レフトオーバース」
銀座メゾンエルメス フォーラム、
東京、2008年
© Nacása & Partners Inc.
Courtesy: Fondation d'entreprise
Hermès

【右】
マイスール郊外、お祭りの日の風景

[4] 大型絵画やインスタレーションの一部になって、空間的な体験をする

スケールの大きな作品が多いN・S・ハルシャの絵画ですが、描かれるのはキャンバスに留まらず、床や壁、公園の地面や寺院の屋上まで様々です。大型絵画からインスタレーションまで、観客は作品の一部になって、空間的な体験をすることができます。

本展で展示されるインスタレーション《空を見つめる人びと》(2010年)もその一つ。床に描かれた人々の眼差しはどれも天を向き、その目線を追って見上げれば、群衆に紛れ星空の一部となった自分を発見することでしょう。「彼らが見つめる先にあるものとは何か?」「自分はどこにいて、世界はどこに向かっているのか?」などと、思索に耽けるのもよいかもしれません。



【上】《空を見つめる人びと》

【下】同上(部分)

2010年 アクリル、合板

展示風景：リバプール・ビエンナーレ、2010年

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

[5] 東京の子どもたち100人の「未来」を展示 ～N・S・ハルシャによるコミュニティ・プロジェクト～

N・S・ハルシャは絵画やインスタレーションだけでなく、各地でその土地の人々や子どもたちとおこなうコミュニティ・プログラムやワークショップでも、定評を得てきました。ここ東京でも、子どもたちを中心としたワークショップを数回にわたって実施します。

展覧会開催前の1月には、森美術館近隣の小学校の生徒たちと一緒に「どんな大人になりたいか」を想像し、その未来の夢を大人向けのワイシャツに描くワークショップを開催します。完成した作品は、《未来》と題して会場内に展示される予定です。六本木ヒルズ森タワーの最上層で、約100人分の子どもたちの未来を一緒に見つめてみませんか。



《未来》2007年 ワークショップ風景：郷公国民小学校、新北市、台湾、2007年



《大志と夢：カルナータカ州トゥムクールにあるTVS校のためのプロジェクト》2005年
Courtesy: TVS Academy, Tumkur, India *参考図版

[6] 美術館の外にも、N・S・ハルシャの旅は続く

展覧会の会期中には、展示室の外でもN・S・ハルシャの作品に出会うことができます。六本木ヒルズ森タワー52階の通路には、壁一面に多数の人々が描かれた《返される眼差し》(2008/2017年)が登場。展覧会の開幕前には、壁に絵を描くアーティスト本人や制作スタッフに出会えるかもしれません。開幕後には、絵の中に紛れた自分を撮影できるフォトスポットとしても利用できるでしょう。六本木ヒルズのその他の場所でも、N・S・ハルシャの作品が展示される予定です。

* 展覧会開幕前に六本木ヒルズ森タワー52階へ入場する際は、展望台 東京シティビュー、もしくは森アーツセンターギャラリーへの入場券が必要です。



《返される眼差し》
2008年
アクリル
396.2 x 762 cm
展示風景：「インディアン・ハイウェイ」サーペンタイン・ギャラリー、ロンドン、2008年

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

◆ 企画者のメッセージ

片岡真実(本展キュレーター/森美術館チーフ・キュレーター)

N・S・ハルシャは、1969年、南インドの古都マイスールに生まれ、1990年代には進歩的教育で国際的に知られるヴァドダラーの美術大学で学び、現在はマイスールを拠点に活動しています。インドの現代アート・コミュニティが、経済成長とともに国際的な注目を浴びるなか、N・S・ハルシャもこの10年間に各地の「インド現代美術展」を含む数多くの国際展に招待されてきました。その一方で、南インドの伝統文化や自然環境、人間と動植物との関係など自らを取り巻く生(ライフ)と真摯に向き合いながら、独自の立ち位置を確立してきた作家でもあります。

N・S・ハルシャの芸術的実践には、ベールール(Belur)、ハレヴィードゥ(Halebidu)など、ホイサラ王朝期(11~14世紀)のヒンドゥー寺院にみられる細密彫刻、あるいはマイスール様式のミニアチュールなど、地域に深く浸透した具象造形の伝統から、絵巻の伝統や近代コミックなどに継承された神話や物語の文化、女性が毎朝玄関前に描く砂絵「ランゴリー」など、国際的な現代アートの文脈では語りきれない多様な文化が複雑に編み込まれています。絵画を中心に、ドローイング、彫刻、サイト・スペシフィックなインスタレーションやワークショップなど、多様なメディアを駆使していますが、そこに通底しているのは、身体に象徴されるミクロコスモスと森羅万象を包むマクロコスモスが同時に存在する世界観、そして日々の不条理や両義的な瞬間へ向けられた観察者の視点です。

「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」と題された本展は、彼のこれまでの主要作品が初めて一堂に会するミッドキャリア・レトロスペクティブです。1995年から2016年までの主要作品を網羅しながら、アーティストの実践の展開を見つめます。タイトルにある「旅(ジャーニー)」は作家自身の人生の歩みにとどまらず、マイスールから見たインドの政治・経済的発展、そして、それと並行する現代のあらゆる地域における社会の変化という旅、日常生活に見る人々の変化、伝統と現代を往来する旅、生物科学的世界観から天文学や宇宙的スケールへの旅など、さまざまな「旅」を示唆しています。また、一つの作品で時に数千人も描かれる人物からも、それぞれの人生を読み解くことができます。ここでは動物や植物などあらゆる生命体とともに、われわれ人間も壮大な宇宙の塵の一つとして描かれています。また、謎に満ちた宇宙、予測不可能な未来へ向けられたN・S・ハルシャの好奇心も見とれます。これらの「旅」のプロセスは必ずしもチャーミングなものばかりではありませんが、この世の不条理な出来事や両義的な価値観などに対して、N・S・ハルシャは批評的かつユーモラスな眼差しを注ぎ、それらを「チャーミングな旅」として私たちに伝えてくれるのです。

森美術館では、これまでも中国、アフリカ、インド、中東など成長目覚ましい世界各地の現代アートの現状を、地域展とアジアの中堅作家の個展の両輪で紹介してきました。本展「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」もこの個展のシリーズの一つに位置づけられます。インドは複数の州、言語、食文化、宗教によって構成され、それぞれ数千年にわたる複雑な歴史が蓄積されてきた国です。なかでも、作家が拠点とするマイスールは、14世紀からインド独立まで続いた王国であり、文化・芸術分野で豊穡な歴史を有しています。近年、「多元的近代/複数の近代」という概念の研究が進んでいます



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

が、本展では「美術」について、N・S・ハルシャというひとりの作家の視点、マイルールという場所を通してその多面的な文化を紐解くことで、現代アートの解釈や枠組みもまた、欧米が中心となって形成されてきた近現代美術に限定されない、時空間を横断した、より普遍的なものへと解放されていくことを願っています。



《ふたたび生まれ、ふたたび死ぬ》2013年
 アクリル、キャンバス、ターボリン 365.8 x 2,407.9 cm
 展示風景：第5回モスクワ現代美術ビエンナーレ、2013年



《ふたたび生まれ、ふたたび死ぬ》(部分)
 2013年
 アクリル、キャンバス、ターボリン
 365.8 x 2,407.9 cm

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

① 展覧会関連プログラム

■ トークセッション「世界を俯瞰する絵画、日常を観察する絵画」 ※日英同時通訳付

N・S・ハルシャは、日常の出来事から宇宙空間まで、細部と全体像の間で視点を往来させながら、この世界を観察しています。そこから生まれる作品には、インドの伝統美術、グローバル企業のインド進出、国際的な現代アート界から、動植物の世界、伊藤若冲や葛飾北斎など日本の絵師までが参照され、時代も場所も超越して多方向に繋がっています。

多様な表現のなかで中心になるのは「絵画」。本トークセッションでは、世界を俯瞰する絵画、日常を観察する絵画を糸口に、N・S・ハルシャ、山下裕二、会田誠が、本展キュレーターとともに議論します。

出演：N・S・ハルシャ、山下裕二(明治学院大学教授)、会田誠(美術家)、片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

日時：2017年2月4日(土) 19:00-21:00 (開場：18:30)

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

定員：150名(要予約)

料金：一般1,800円(展覧会チケット付)、MAMCメンバー無料

主催：森美術館

協力：アカデミーヒルズ

お申し込み：後日、森美術館ウェブサイトにて受け付けます。 www.mori.art.museum

*手話同時通訳のご利用をご希望の方は、2017年1月26日(木)までに ppevent-mam@mori.co.jp へご連絡ください。



山下 裕二



会田 誠

Courtesy: Mizuma Art Gallery

■ アーティストトーク「出展作品《ここに演説をしに来て》の世界」 ※日英逐次通訳付

6点組の本展出展作品《ここに演説をしに来て》(2008年)は、細部をよく見ると、誰もが知っている物語の登場人物や有名アーティストたちの姿が描かれています。本プログラムでは、この作品に特別に焦点をあて、作品に描かれた物語についてアーティスト自らが展示室内で語ります。

出演：N・S・ハルシャ

日時：2017年2月15日(水) 19:00-20:00 (受付開始：18:45)

会場：森美術館展示室内

定員：40名(要予約) **料金：**無料(要展覧会チケット)

お申し込み：後日、森美術館ウェブサイトにて受け付けます。
www.mori.art.museum

*手話同時通訳のご利用をご希望の方は、2017年2月6日(月)までに ppevent-mam@mori.co.jp へご連絡ください。



《ここに演説をしに来て》(部分)

2008年 アクリル、キャンバス 182.9 x 182.9 cm (x 6)

■ ティーンズ・プログラム「アーティストと出会う」 ※日本語のみ

中学3年生以上の10代(15~19歳)を対象に、展覧会をじっくり鑑賞した後に自らの言葉で語り合うプログラムです。プログラム最終日にはN・S・ハルシャとも直接語り合います。

日程：全3回(2017年2~4月の各月1回ずつ)開催予定

会場：森美術館展示室内 **対象：**15~19歳 **定員：**15名程度(要予約、先着順) **料金：**無料

*本プログラムは、3日間にわたるプログラムにつき、全日程の参加が必須となります。あらかじめご了承ください。

*開催日などプログラム詳細は、後日、森美術館ウェブサイトでお知らせします。 www.mori.art.museum

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ キッズ・ワークショップ「フューチャー：未来の夢」

小学生を対象に、将来成りたい「大人」について想像するワークショップです。N・S・ハルシャと一緒に「未来の夢」について想像し、ビジネスマンが着るような大人サイズのシャツにそれぞれの夢を描きます。子どもたちが描いたシャツは展示会場に展示されます。*こちらのワークショップへの参加申し込みは終了しました。

● 「フューチャー：未来の夢」行進 in 六本木ヒルズ

ワークショップの参加者である約100人の子どもたちが、それぞれの夢を描いたシャツを着て、ビジネスマンが多く働く六本木ヒルズ内を行進します。

日程：2017年1月30日(月)午前 *雨天決行

場所：六本木ヒルズ内

*当日の時間およびその他のプログラム詳細は、後日、森美術館ウェブサイトでお知らせします。 www.mori.art.museum



《未来》2007年
ワークショップ風景：郵公国民小学校、新北市、台湾、2007年

■ キッズ・ワークショップ「ナイト・ジャーニー：夜への旅」 ※日英逐次通訳付

東京の「夜」はどんな色?どんな時間?夜の街では何が起きているのかな?本プログラムは、N・S・ハルシャと「夜」について考えるワークショップです。1日目はアーティストといっしょに「夜」について想像し、いつもの自分とは違う何かに変身することに想像を膨らませます。2日目は自身で想像した姿に変身した子どもたちが六本木の街へ繰り出し、東京の「夜」をスケッチします。

出演：N・S・ハルシャ

日程： **1日目** 2017年4月22日(土)

2日目 2017年4月23日(日)

*本プログラムは、2日間通しのプログラムにつき、全日程の参加が必須となります。あらかじめご了承ください。
*当日の時間およびその他のプログラム詳細は、後日、森美術館ウェブサイトでお知らせします。 www.mori.art.museum

■ 「ヨガしてアート——身体を動かしてアート鑑賞 Supported by Reebok」

N・S・ハルシャの住むインドのマイスールは、アシュタンガヨガで知られています。開館前の展示室内で、N・S・ハルシャの作品に囲まれながら、ヨガとアート鑑賞の両方を体験できるプログラムです。通学、出勤前の朝を森美術館で過ごしてみませんか。

主催：森美術館 **協力**：リーボック

*会期中、数回にわたって開催予定
*開催日およびプログラム詳細は、後日、森美術館ウェブサイトでお知らせします。
www.mori.art.museum



*出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

*その他、ギャラリートーク、ワークショップ、学校プログラム、ファミリープログラム、アクセスプログラムなどを多数予定しています。

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 プログラム担当

Tel: 03-6406-6101(月～金：11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: ppevent-mam@mori.co.jp

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

【同時開催】 会期：2017年2月4日(土)－6月11日(日)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション004：未知の物語を想像する

企画：近藤健一（森美術館キュレーター）

出展作家：米田知子（1965年兵庫県生まれ、ロンドン在住）

シルバ・グプタ（1976年ムンバイ生まれ、在住）

イー・イラン（1971年サバ、マレーシア生まれ、クアラルンプール在住）

「MAMコレクション004」は、米田知子、シルバ・グプタ、イー・イランの3名のアーティストの作品を紹介します。本展で展示する作品は全て、実際には体験したことのない史実や伝説に作家のイマジネーションを挿入することで再現し、作品化したものです。

米田知子の写真シリーズ「見えるものと見えないもののあいだ」は、歴史上の可視・不可視の関係を主題としています。そのうちのひとつ、《フロイトの眼鏡－ユングのテキストを見るⅡ》（1998年）は、フロイトが生前に使用していた眼鏡を通して、自身の弟子でありながら後に決別したユングのテキストを写した作品です。フロイトがどのような気持でその文書を読んだのかと、観る者の想像力を掻き立てます。

シルバ・グプタの《運命と密会の約束（憲法議会演説）》（2007-08年）は、インドの初代首相ジャワハルラール・ネルーが独立前夜に行った有名な演説を、作家自身が口ずさんだサウンド・インスタレーションです。演説に使われるはずのマイクはスピーカーとなり、厳粛な演説はノスタルジックな歌となって聞こえてきます。

イー・イランの「スルー諸島の物語」（2005年）は、フィリピン領スルー諸島にまつわる伝説や物語などを想像して描いた写真シリーズです。マレーシアとインドネシアに隣接するスルー諸島は、15～19世紀にはスルー王国として独立していましたが、現在では反政府勢力やテロ組織の拠点となり外部からの渡航が制限されています。作家もその地の中心部へは立ち入ることができず、周辺の海上から撮影した写真に、リサーチにもとづいてさまざまなイメージを重ね合わせることで、シリーズを完成させました。

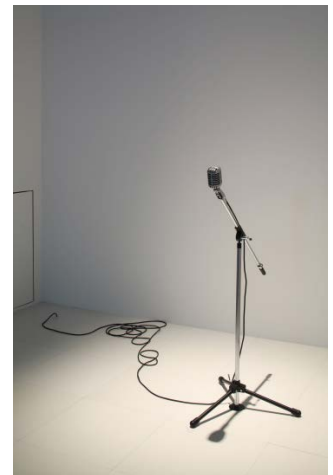
作家の主観によって再現され、ドキュメンタリーとは別のアプローチで描かれた過去や伝説は、私たちの心に静かに何かを訴えかけてくることでしょう。



米田知子
《フロイトの眼鏡－ユングのテキストを見るⅡ》
1998年
ゼラチン・シルバー・プリント
120 x 120 cm



イー・イラン
《スルー諸島の物語－カラウィット島の麒麟》
2005年
デジタルプリント
61 x 61 cm



シルバ・グプタ
《運命と密会の約束（憲法議会演説）》
2007-2008年
マイク、マイクスタンド、内蔵スピーカー
145 x 30 x 30 cm（マイク）9分（音声）
展示風景：「チャロー！インドニア：インド現代美術の新時代」森美術館、2008年
撮影：木奥恵三

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

MAM
SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりの
シングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン005：丹羽良徳 映像集

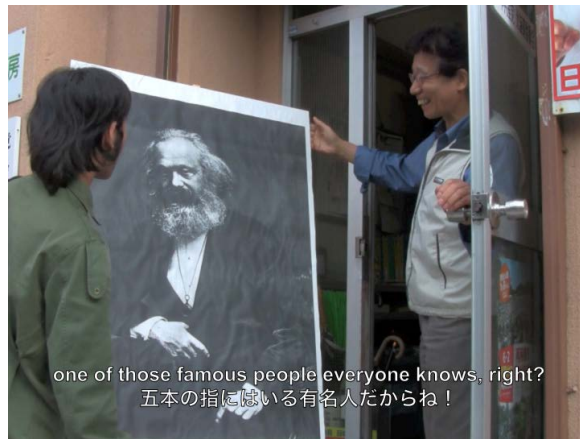
企画：熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

「MAMスクリーン005」は、丹羽良徳(1982年、愛知県生まれ)の映像作品を紹介します。丹羽は様々な国の公共空間を舞台に、一見すると無意味で不条理な行為や企てを試みることで社会や歴史へ介入し、交渉の過程で生じる他者からの反応や予想外の展開、交渉の失敗などを含め、その出来事の一部始終をビデオに収めた作品を発表しています。

本展では、森美術館の所蔵作品である「共産主義をめぐる四部作」シリーズ：《ルーマニアで社会主義者を胴上げする》、《モスクワのアpartメントでウラジーミル・レーニンを捜す》、《日本共産党にカール・マルクスを掲げるように提案する》、《日本共産党でカール・マルクスの誕生日会をする》を、今回の展示のために新たに編集した特別版として上映します。作品のタイトルに示された作家の試みが生み出す「ナンセンス」なアクションや笑いを通して、世の中のさまざまな価値観や意味を再考することになるでしょう。



《モスクワのアpartメントでウラジーミル・レーニンを捜す》 2012年
ビデオ 26分14秒



《日本共産党にカール・マルクスを掲げるように提案する》 2013年
ビデオ 18分2秒

上映作品

- | | | |
|--|------------|--------|
| 1. 《ルーマニアで社会主義者を胴上げする》(シングル・チャンネル版) | 2010/2016年 | 25分24秒 |
| 2. 《モスクワのアpartメントでウラジーミル・レーニンを捜す》(シングル・チャンネル版) | 2012/2016年 | 22分32秒 |
| 3. 《日本共産党にカール・マルクスを掲げるように提案する》(シングル・チャンネル版) | 2013/2016年 | 18分27秒 |
| 4. 《日本共産党でカール・マルクスの誕生日会をする》(シングル・チャンネル版) | 2013/2016年 | 22分56秒 |

※ 作品は本展のために編集し直された特別版となり、上記上映時間はオリジナル版とは異なります。

※ 企画展・パブリックプログラム等実施のため、「MAMスクリーン」上映がない時間帯があります。

上映スケジュールは、森美術館ウェブサイトをご覧ください。 www.mori.art.museum

丹羽良徳

1982年生まれ。主な展覧会に、瀬戸内国際芸術祭2016(2016年、香川県直島)、「愛すべき世界」(2015年、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)、「歴史上歴史的に歴史的な共産主義の歴史」(2015年、Edel Assanti)、「ダブル・ヴィジョン ー日本現代美術展」(2012年、モスクワ市近代美術館、ハイファ美術館)、あいちトリエンナーレ2013(2013年、名古屋市近郊)、「六本木クロッシング2013展：アウト・オブ・ダウトー来たるべき風景のために」(2013年、森美術館)など。



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと
実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト023：アガサ・ゴス＝スネイプ

企画：熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

「MAMプロジェクト023」は、シドニーを中心に国際的に活躍するアーティスト、アガサ・ゴス＝スネイプ(1980年シドニー生まれ、在住)を紹介します。ゴス＝スネイプは、即興的なパフォーマンスを中心に、パワーポイントを使用したスライドショー、参加型のワークショップ、テキスト、視覚的なスコア(楽譜)など、様々な手法を用いて作品を発表しています。日本初の個展となる本展では、森美術館のモットーである「アート&ライフ」から着想を得たインスタレーションと、そこから発展した一連のパフォーマンスで構成される、新作《オー・ウィンドウ》を発表します。

インスタレーションは、会場となる六本木ヒルズ森タワーの窓から見える東京の景色を「アート&ライフ」の「ライフ」のメタファーとして捉え、実際には窓のない展示空間にいくつもの仮想的な「窓」を作るものです。これら仮想の「窓」(=作品)は、アーティストと美術館スタッフとの会話や、六本木ヒルズ周辺で彼女が発見したものをモチーフとしたグラフィックや映像などから成り立ちます。パフォーマンスはインスタレーションの内容と呼応し、会期中に展示室内および六本木ヒルズ全体を舞台に展開される予定です。展示空間にできた仮想の「窓」が、パフォーマンスに登場するアーティスト、ダンサー、音楽家への視覚的な指示書やスコアとなり、また一方で、パフォーマンスの痕跡がインスタレーションの展示内容へと反映されることで、「窓」からの眺めは少しずつ変化していくことになるでしょう。

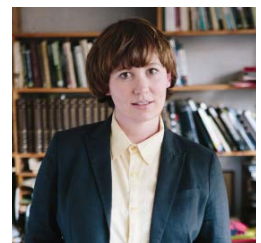


【左】
《修辞学的コーラス(LW)》2015年
パフォーマンス風景：パフォーマ15、ニューヨーク、2015年
撮影：Joe Jagos
Image courtesy: The Commercial Gallery, Sydney
※参考図版

【右】
《ヒア・アン・エコー》2015-2016年
パフォーマンス風景：第20回シドニー・ビエンナーレ、2016年
撮影：Rafaela Pandolfini
Image courtesy: The Commercial Gallery, Sydney
※参考図版

アガサ・ゴス＝スネイプ

1980年シドニー生まれ、在住。2011年シドニー大学視覚芸術学部修士課程修了。近年の主な個展に「あいまいなメディア」ザ・コマーシャル・ギャラリー、シドニー、「修辞学的コーラス(LW)」パフォーマ15、ニューヨーク(2015年)、「フリー・スピーキング」ガートルード・コンテンポラリー、メルボルン(2014年)、「テイキング・フォーム」ニューサウスウェールズ州立美術館、シドニー(2013年)など。主な国際展に第20回シドニー・ビエンナーレ(2016年)、第8回ベルリン・ビエンナーレ(2014年)などがある。



撮影：Aimee Crouch

?! 展覧会関連パブリックプログラム

■アーティストトーク ※日英同時通訳付

アーティスト本人が展覧作品について語ります。

出演：アガサ・ゴス＝スネイプ 日時：2017年2月4日(土)14:00-15:30(開場：13:30)

会場：森美術館 オーディトリウム(六本木ヒルズ森タワー53階) 定員：80名(要予約) 料金：無料(要展覧会チケット)

お申し込み：後日、森美術館ウェブサイトにて受け付けます。 www.mori.art.museum

最新のプレス画像は、森美術館ウェブサイトのプレス画像ストックより申請、ダウンロードいただけます。

<https://mam-media.com/jp/press-img>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館